



# 令和2年度 組織的な授業改善の重点

重点1：「考えるための技法」を位置付けた、「ねらい」と「評価規準」との連動

重点2：個の困りを位置付けた、個に応じた指導

重点3：単元構想を意識した、振り返りの位置付け

## 「新大分スタンダード」に基づいた授業改善の6必須事項

① 明確な「ねらい」

② 評価規準と「ねらい」との整合性

③ 「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定

④ 「考えるための技法」の位置付け

⑥ 振り返りの設定は、学びの成果を実感させ、次につなげられるような視点で

⑤ 個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫

年 組	4年1組	教 科	算数	指導者	○
単元・題材	折れ線グラフ			時 数	
ねらい	波線を使ったグラフのよさを、波線のないグラフとのして、説明することができるようにする。				
【観点】	【数学的な考え方】二つの折れ線グラフの相違点を根拠として、説明することができるようにする。				
評価規準 (見取る方法)	グラフのよさについて考えている。(ノート観察)				
【めあて】	折れ線グラフの工夫を説明しよう				
《課題》	B(波線あり)のグラフの変化が分かりやすいのはな				
《学習活動》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A、Bの折れ線グラフの特徴をベン図で比較する。</li> <li>・ベン図をもとに理由を整理し、まとめる。</li> </ul> ※理由をまとめることが難しい児童には、まとめ方の文型を提示し、ベン図との関連を伝えさせる。				
《まとめ》	縦の目盛りは波線を使うことで折れ線に必要なくなり、目盛り幅も大きくなるからわかりやすくなり、変える必要もない。				
【振り返り】	・グラフは表し方の工夫で見の人がわかりやすくなる。説明が				

# 重点1：「考えるための技法」を位置付けた、「ねらい」と「評価規準」との連動

① 明確な「ねらい」

② 評価規準と「ねらい」との整合性

④ 「考えるための技法」の位置付け

ねらい	C 育成を目指す資質・能力（～できるようにする。／～に気付くようにする。／～を高める。等） ※指導者の立場での記述を推奨
	【評価規準】 （ねらいの「C：育成を目指す資質・能力」にあたる内容を見取るよう設定する）
評価	【観点】（小は新指導要領の観点）
	【評価方法】 ○（表記例：～したところであてを位置づける。）
展開	【めあて】（～して～しよう） ○（表記例：教室状況として～に着目したところで課題を位置づける。）
	【課題】（疑問形を意識） ・ ・ 【個】～な児童には、～することで、～できるようにする。 （困りの状況）（配慮の具体）（意図） ・
	【まとめ】（課題に対する答え）
	○（振り返りにつながる手立て・視点等の提示）
	【振り返り】（期待したい児童・生徒の反応を児童生徒の言葉で想定：どんな学びの成果を実感し、次時に向けてどんな意識を持たせたいか等）

## 「ねらい」の構成要素

ねらい	A 学習内容（～を／～について）
	B 学習活動（～を通して／～からとらえ）
	C 育成を目指す資質・能力 （～できるようにする。／～に気付くようにする。等）

A を

B することを通して

C できるようにする。

省略を示す波線を使ったグラフの特徴を、

波線ありとなしのグラフ座標における折れ線グラフの傾きの違いを比較する学習活動を通して、

説明することができるようにする。

## 「ねらい」を記述する際のコツ

AとCを、続けて読んでみても  
意味の通る文になっているか？

- A 学習内容  
(～を/～について)
- B 学習活動  
(～を通して/～からとらえ)
- C 育成を目指す資質・能力  
(～できるようにする。等)

ね  
ら

A を

C できるようにする。

波線を使っ  
たグラフの  
特徴を、

説明することが  
できるようにする。

## 「考えるための技法」を設定する

Bの学習活動においては、  
「考えるための技法」を  
意識して設定しましょう。

- A 学習内容  
(～を/～について)
- B 学習活動  
(～を通して/～からとらえ)
- C 育成を目指す資質・能力  
(～できるようにする。等)

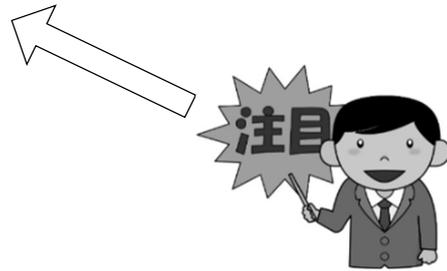
ら  
い

次のB(学習活動)の記述部分を、どのように修正すれば、考えるための技法を意識した「ねらい」の設定になるでしょうか？

A 1より小さい同分母の分数の引き算について、

**B** 班で話し合うことを通して、

C 説明できるようにする。



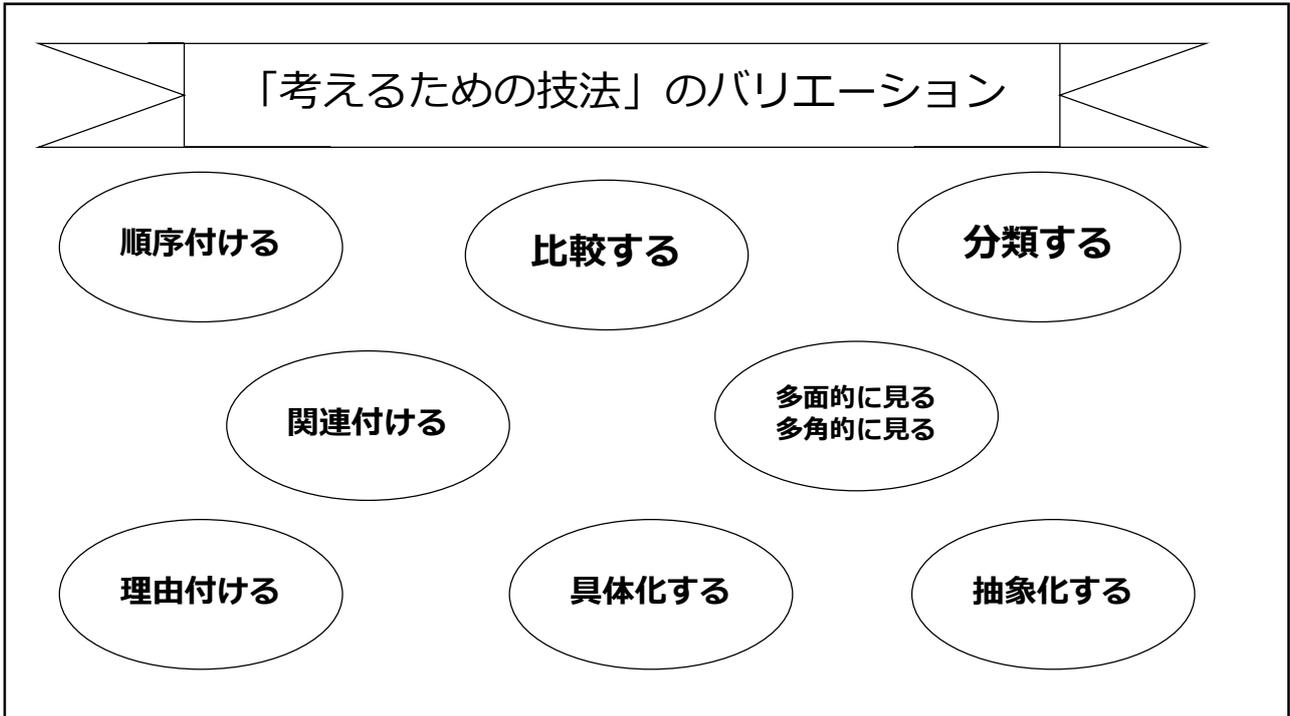
次のB(学習活動)の記述部分を、どのように修正すれば、考えるための技法を意識した「ねらい」の設定になるでしょうか？

A 1より小さい同分母の分数の引き算について、

**B** 前時の分数の加法を**関連付ける**ことを通して、

C 説明できるようにする。





「ねらい」と「評価」の連動

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ AとCを続けて読んでみて、意味の通る文になっているか。</li> <li>○ Bにおいて、順序づける・比較するなどどんな「考えるための技法」を設定しているか。</li> </ul>	ねらい	<p>A 学習内容（～を／～について）</p> <p>B 学習活動（～を通して／～からとらえ）</p> <p>C 育成を目指す資質・能力（～できるようにする。／～に気付くようにする。／～を高める。等）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評価規準は「ねらい」に示した資質・能力の実現の状況を判断できるものになっているか。</li> </ul>	評価	<p><b>【評価規準】</b></p> <p>「ねらい」に示した育成を目指す資質・能力の実現の状況を判断できるように設定する。</p>

# 学習評価の改善の基本的な方向性

■ 学習評価を真に意味あるものとし、指導と評価の一体化を実現するために求められること

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

## 重点2：個の困りを位置付けた、個に応じた指導

ねらい	A 学習内容（～を／～について）、 B 学習活動（～を通して／～からとらえ）※「考えるための技法」を意識する C 育成を目指す資質・能力（～できるようにする。／～に気付くようにする。／～を高める。等）※指導者の立場での記述を推奨
	【評価規準】 （ねらいの「C：育成を目指す資質・能力」にあたる内容を見取るよう設定する）
評価	【観点】（小は新指導要領の観点）
	【評価方法】 ○（表記例：～したところであてを位置づける。）
展開	【めあて】（～して～しよう） ○（表記例：教室状況として～に着目したところで課題を位置づける。）
	【課題】（疑問形を意識）
	・ ・ 【個】～な児童には、～することで、～できるようにする。 （困りの状況）（配慮の具体）（意図）
	・ ・
	【まとめ】（課題に対する答え）
	○（振り返りにつながる手立て・視点等の提示）
	【振り返り】（期待したい児童・生徒の反応を児童生徒の言葉で想定：どんな学びの成果を実感し、次時に向けてどんな意識を持たせたいか等）

⑤ 個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫

個に応じた指導の手立ての明確化

【題目】 分数でも引き算ができるか考えよう。

【課題】 分数の引き算も 足し算と同じように  
分子だけでも計算できるのだろうか

【個に応じた指導】

**方法がまとめられない児童には、個別に指導する。**

個に応じた指導の手立ての明確化

【困りの状況】 方法がまとめられない



【困りの分析】 **分数の意味**（分数概念）の定着が不十分



【手立て】 **具体物**（液量図）を**操作**させることで

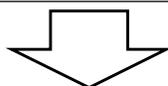


【目的】 **単位分数の個数に着目**できるようにする

## 個に応じた指導の手立ての明確化

### 【個に応じた指導】

方法がまとめられない児童には、個別に指導する。



### 【修正後】

**分数概念**の定着が不十分な児童には、  
**液量図**を操作させることで、  
**単位分数の個数に着目**できるようにする。

## 重点3：単元構想を意識した、振り返りの位置付け

③ 「めあて・課題・  
まとめ・振り返り」  
の適切な設定

ね ら い	A 学習内容（～を／～について）、
	B 学習活動（～を通して／～からとらえ）※「考えるための技法」を意識する
評 価	C 育成を目指す資質・能力（～できるようにする。／～に気付くようにする。／～ を高める。等）※指導者の立場での記述を推奨
	【評価規準】 （ねらいの「C：育成を目指す資質・能力」にあたる内容を見取るよう設定する）
	【観点】（小は新指導要領の観点）
	【評価方法】
	○（表記例：～したところであてを位置づける。）
	【めあて】（～して～しよう）
	○（表記例：教室状況として～に着目したところで課題を位置づける。）
	【課題】（疑問形を意識）
	・
	・
	【個】～な児童 （困りの
	・
	【まとめ】（課題に対する答え）
	○（振り返りにつながる手立て・視点等の提示）
	【振り返り】（期待したい児童・生徒の反応を児童生徒の言葉で想定：どんな学び の成果を実感し、次時に向けてどんな意識を持たせたいか等）

⑥ 振り返りの設定は、学びの成果を  
実感させ、次につなげられるような視点で

## 単元構想とは？

### ■ 単元（題材）指導計画作成の留意点

※ 単元（題材）の指導計画に必要な要素

単元の目標（ねらい）、育成を目指す資質・能力、単元の評価規準、教材等の選定、単元の展開、評価計画 など

- ① 当該単元における、育成を目指す資質・能力を確認します。（**ゴールの明確化**）
- ② 資質・能力の育成に向けて、単元の展開をデザインします。その際、**内容のまとめ**りや各教科等の**特質に応じた学習過程**を意識して、一連の**問題解決としての展開**を考えます。
- ③ 「単元の展開」に基づいて、評価計画を作成します。

「単元の展開」の一例 例) 小学校第3学年 社会 「店ではたらく人びとの仕事」（全8時間）

内容や時間のまとめ					
学習課題を設定する	課題解決の見通しをもつ	予想や仮説の検証に向けて調べる	社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する	考察・構想したことをまとめる	学習したことを振り返って考察する
動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
スーパーマーケットに行った体験をもとに、考えられる工夫を予想する。	見学の計画を立てるとともに、班ごとに調べるポイントをまとめる。	見学で、店内の様子を調べたり、働いている人にインタビューをしたりして工夫を調査する。	見学で見たこと、聞いたことを表に整理し、工夫の意味や工夫相互の関連を考える。	消費者の願いをかなえる工夫や売り上げを高める工夫などに分けてまとめる。	学習を振り返り、見付けた工夫にぴったりのキャッチコピーをつくって、班や学級で紹介し合う。

各教科の特質に応じた学習過程

**資質・能力**

学習に向かう力、人間性等

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

## 単元構想を見通した「振り返り」

① **学習のプロセスや成果を振り返る**

- ・ 何をしたか、また使えるか。
- ・ この学習で何が大切か、何が分かったのか。
- ・ この学習で何ができるようになったのか。 等

② **これまでの経験や学習と関連付ける**

- ・ 身の回りの事象や日常生活とどんな関連があるか。
- ・ 既習事項とどんな関連があるか。
- ・ 既習事項を使って、考えることができたか。 等

③ **次回の学びへつなげる**

- ・ 今後使ってみたい、もっと調べたいことは何か。
- ・ 改善には、何が必要か。
- ・ 次は、何をすべきか。 等

- 単に「感想を書きましょう」とすると、「おもしろかった」や「楽しかった」などの記述が多くなり、児童生徒の学びの状況についての反応（思考や内省）を読み取ることができにくくなるので注意が必要です。

